

第759回 立教開宗会並別當就退任式

管長・身延山久遠寺法主

内野日総猯下ご親修



平成23年5・6月
合併号

発行所
〒299-5505 千葉県鴨川市
清澄322-1
© 清澄 寺
TEL 04 (7094) 0525 番
FAX 04 (7094) 0527 番
振替 00140-5-55501

印刷所
天津 (有)ブラザー印刷
送料共1部100円

お知らせ

6月

27日 19:00
信行会 (唱題行)

7月

21日 8:00~15:00
22日 8:00~12:00
妙見宮大祭

27日
信行会 (唱題行)

8月

1日 11:00
大施餓鬼会法要
10日 1:00
盂蘭盆会法要
27日 19:00
信行会 (唱題行)

立教開宗会 並 別當就退任式

本年は、宗祖大聖人が旭が森岩頭に立ち、初めてお題目をお唱えされて立教開宗の宣言をなされてから、第七百五十九回目となります。

本年の法要は、別當就退任式を兼ねる法要でありましたので、当山と致しましたので、当山と致しました。御案内と打ち合わせで準備を進めてまいりました。更に、途中で大幅な変更になった事は、皆さんご存知のように、三月十一日の東日本大震災により、法要後の祝賀会が自粛となったことでありました。

地元の三日月ホテルを予約して日程は進めております。

したが、キャンセルさせて頂き、清澄の研修会館で食事をして頂く事に致しました。

当日は天候も良く、管内寺院・寺庭婦人会のお手伝いの皆さんは、早朝八時までに黒門脇の駐車場に集合、ワゴン車に乗り換えて研修会館に。

受付を始め、担当各部所の最終確認を行ない、来山者を迎える体制を整えました。

十一時五十分、第一鐘が鳴ると、研修会館に控えられていた来賓寺院、本願人檀信徒の皆さんは祖師堂に移動。

法要が始まる前には、ご宝前中央で和讃会有志の方の和讃奉詠が奉納されました。

堂内に入りきれない出席者は境内の特設テントの中

での法要参加となりました。

十二時二十五分、昇堂太鼓が響きわたると、管長内野日総猥下大導師に、副導師は、二宮日敬新別當・上村貞雄南部宗務所長が入堂され、開式となりました。



法要中盤で、第十二代中條前別當から内野管長猥下に弘子が奉還、続いて内野管長から第十三代二宮新別當に弘子が授与され盛大な拍手が沸き上がりました。

法要後の内野管長のお言葉では、東日本大震災の被災者にお見舞い、犠牲者には追悼のお言葉を申し述べられました。

続いて、渡邊照敏宗務総長、本山会を代表され、勝浦興津妙覚寺堀水貫首猥下から中條前別當への御慰勞と、二宮新別當へのお祝辭を頂き、荘厳な法要も二宮別當・佐々木執事長の謝辭をもって閉式となりました。



(謝辭を述べる二宮別當)

その後、研修会館の道場で記念の集合写真、各部屋に分かれて祝賀の食事会となりました。

唱題行

祝賀の食事会も盛り上がり、遅くまで懇談されている部屋もありましたが、夜の唱題行、参籠の皆さんのための部屋の準備等で、山内は引き続き慌ただしく時間が過ぎて行きました。

午後七時、求道同願会桐谷僧正導師のもと、参籠者と当日の参加者で道場一杯となり、唱題行が行なわれました。



旭が森

暁天法要

二十八日の暁天法要は、あいにくの曇りで、時折小雨に見舞われましたが、塩崎教務部長導師にて参籠者全員がお題目をお唱え致しました。

大太鼓張替奉納のお願い

大堂摩尼殿にあります、大太鼓三台の皮が伸びてきており、張替が必要な状況となりました。大きさは、二尺二寸三寸という大きなもので、この太鼓は毎日毎朝昇堂太鼓として、また法要中のお題目等で常に使用しているものです。奉納者は太鼓にプレートにて記名させていただきますので、どうぞこの機会にご奉納頂き、ご芳名を末永く清澄の地に留め於いて頂きたく願う次第です。



太鼓は三台ございます。

●二尺長胴太鼓 三十万円

●二尺長胴太鼓 三十万円

●達磨型太鼓 五十万円

以上の予算となります、

何卒、よろしくお願い申し上げます。

*一口：三万円以上



佐々木執事長と山務員が、東日本大震災の慰霊法要とボランティアに参加

宮城県石巻へ出向く

テレビ、新聞等で連日報道されており、東日本大震災に当山山務員が数名奉仕出向をされました。

六月六日から八日の三日間にわたり、清澄寺地元の日蓮宗千葉南部青年会(村田教行会長)主催の企画に

強い賛同をされ、佐々木光道執事長を筆頭に、村田教行法務主事、小澤玄勇山務員、荻野泰裕山務員。

そして大森太郎庶務主事は自坊住所地の神奈川県主催関係から参加し、現地と一緒にするという幅広いネットワークのつながりで参加されました。

感想レポート

初日は、地元から各自電車で東京へ。東京駅で全員が合流し、新幹線で一路仙台へ。

ここで驚いたことは、福島あたりを通過した頃、車内通路の向こうから歩いてくる、元清澄寺に山務されていた館岡妙宝法尼とバツタリ顔を合わす事になりました。

お互いにビックリし会話を交わすと、宮城に慰霊に

同じ目的でこのような所で会う不思議さを感じているうちに仙台に到着。



(村田日青会会長導師のもと、この公園から望む景色は一面、右の写真の状況でした。)



特殊マスク、長靴、皮手袋でスコップを手にヘドロ撤去の佐々木執事長



駅近くでレンタカーに便乗し、石巻市日和山公園にて「大震災物故者慰霊法要並被災地早期復興祈願法要」を村田教行師導師により務められました(奇しくも村田主事が四月から青年会長のため)

続いて石巻市門脇サッカー場(物故者土葬埋葬所)にて「慰霊法要」を営みました。

翌七日は、ボランティア団体「アムール石巻」の担当者指示に従い、市内住宅街にて、住宅庭のヘドロとU字溝内のヘドロ撤去作業を行いました。

作業の向こうは、一面ガレキの山、他のボランティアは誰もいなかった。



八日は昼過ぎまで、宮城復興支援センターにて全国より集められた支援物資の仕分け作業を致しました。この度の被災地におけるボランティア作業では、現地に言葉にならない程の悲惨な現状を目の当たりにし、今なお困難な日々を強いられる方々との出会いによって、人の無力さ、命の有り難さ、そして僧侶

としての私たちの使命を、改めて学ばせていただくことが出来ました。

又、素晴らしい出会いの数々もありました。慰霊法要中に私達の後ろで共に手を合わせて下さった方は、親族を亡くし、辛い現状を背負いながらも一歩ずつ前へ歩まれています。

作業場の近所に住む方々は、「本当に有難う」の言葉を私達に送って下さいました。

当初は「被災された方々の為に何か出来ることはないか、少しでも力になりたい」という思いも、「お経を上げさせていたでいてる。お手伝いをさせていたでいてる」という思いに自然と変わっていくのを感じました。

参加者一同が黙々と作業に取り組み姿勢や、終えたあとの顔を見ますと「私だけでなく、皆もそう感じていたのでは」との確信をしておられます。

日蓮大聖人は、大衆の苦しみを我が苦しみとして強く受け止められ、お一人で力強く立ち上がられ、大慈悲をもって法華経の実践修行であるお題目の信仰をお引めになりました。

く受止められ、お一人で力強く立ち上がられ、大慈悲をもって法華経の実践修行であるお題目の信仰をお引めになりました。

末弟である私たちにとって、「困っている方がいればお手伝いをする」という他者への奉仕、即ち「菩薩行」こそ人生最善の道であるという思い。

そして個人個人が僧侶としての自覚、立正安国の願

業を再確認出来れば、という願いの中で企画されました。

希心会様 登山修行

本年も四月～五月は希心会(飯島会長)の皆さんが連日登山修行されました。今年の修行は四月一日から五月三十日までで、大勢の修行者をご登山されました。

この希心会の皆さんは、行衣を身にまといお昼過ぎに山の中腹から行列を組み、御旗を先頭に大聖人の歩まれた旧道を中心に徒歩でお題目をお唱えしながら

この度は、本当にかげがえないご縁を皆様と結ばせていただき、何ものにも代え難い経験をさせていたできました。

(以上の記事は、村田教行主事レポートをメインに一部加筆編集し掲載致しました)

ご登山されます。夕刻、清澄寺へ到着されるやすぐに修行に入り夜遅くまで、更には早朝暗いうちから旭が森にて修行に入り、その後、朝勤に参列され、朝食を済ませ休む間もなく行列にて徒歩で下山されました。

この日程で各地の支部から数十人、多い地区では数百名でご登山されており

談話室

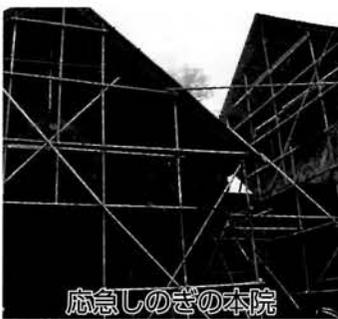
この度の、就任式に際しましては、晴天に恵まれ当山と致しましては、大変助かり、ホッとしております。

その理由は、本院が老朽化のため、控室として使用できる状態ではありません。

そのため、研修会館を控室と致しましたが、本堂との移動には境内を歩かなくてはなりません。

雨で法衣を着ての移動は大変な事になる訳でございます。

本院は江戸時代初期の建造物もあり、過年度の立教開宗七五〇年のおりに改修計画をたてましたが、資金が整わず現在に至っております。



本院の急ぎの応急

ます。二宮別當は、この本院を何とか改修しなければならぬと計画をたて、皆様にお願いを申しあげようと致しましたが、その直前に、御存知の東日本大震災が発生致しました。

六月六日～八日は、山務員がござって被災地での慰霊とボランティアに向いており、今号はその記事部分も多く占めてしまいましたが、あらゆる面で充分な体験と成果を得てきた事と思えます。

当山は大震災による直接の被害はございませんでしたが、千葉県も被災地として報道された関係でしょうか、団体参拝のキャンセルが相次ぎ、研修会館始め諸運営が非常に厳しいものとなっております。

被災された地域の早期復興と物故者の御供養を連日させて頂いておりますが、皆様におかれましては是非ご参拝頂き、山務員から体験談等を聞いて頂けましたら幸いと存じます。